

家園

字体作者：周 慧琚

第33号



特定非営利活動法人
中国帰国者・日中友好の会
〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7
ペガサスミシンビル1階
TEL:03-3835-9357 FAX03-3835-9358
<https://jc-yuko.com//>



2025年お花見

目次

★ NPO 活動写真	2
★ 新年会にて理事長の祝辞	3
★ 新年会にて岑松参事官の祝辞	4
★ 「中国残留孤児国家賠償訴訟弁護団」鈴木経夫団長ご逝去	5
★ 「感恩訪中団」が結成へ	6
★ 年夜飯(年越し料理)	7
★ 本会活動記録・お知らせ・編集後記	8

活動写真(NPO 新年会特集) (撮影:柳勇夫 吉岡孝行)



参議院議員 西田まこと先生



「日中協会」会長野田毅先生



参議院議員矢倉克夫先生



長谷川茂雄理事長



弁護士 河合弘之先生



弁護士小野寺利孝先生



太極拳の発表



合唱クラスの発表



北野燕里先生の日本舞踊



中国舞踊

2025 新年会での祝辞

NPO 法人中国帰国者・日中友好の会 理事長 池田澄江

岑松書記官を始めとする中国大使館の皆様、野田先生を始めとする支援者の皆様、帰国者及び関係者の皆様、あけましておめでとうございます！

私はNPO法人 中国帰国者・日中友好の会 理事長池田澄江でございます。今日は弊会を代表して、お忙しい中、私どものNPO新年会に御出席いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

本会は設立以来、早くも15年の歳月がたちました。本来ならば、今日は15回目の年会を開催すべきですが、コロナの流行で、6年ぶりに来賓を招いて開催することになりました。この場で大勢の旧友と再会ができ、嬉しい限りです。

自粛期間でも、弊会は帰国者に楽しく暮らしていただくために、そして日中友好のために、細心の注意を払いながら、様々な行事の企画・参画をしてまいりました。そのすべての活動は、ここにいらっしゃる来賓をはじめとする支援者の皆様のお陰で実現できたものです。弊会を代表して心より感謝を申し上げます。

今年は終戦80周年の節目です。それを記念して「中国訪問」を計画しております、今度の訪問は、残留孤児にとっては最後ではないか、と思います。中国大使館、日中協会にぜひ後援になっていただくようお願いいたします。

弊会はこれからも今まで通りにすべての帰国者の老後の幸せのために、そして日中友好の為に微力ながら努めたいと存じます。

引き続き、皆様のご支援、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

皆様、今日は大いに楽しんで下さい。

尊敬的中华人民共和国驻日使馆岑松书记官、尊敬的野田先生、各位来宾、归国人员及相关人士，新春快乐！

我是NPO法人"中国归国者・日中友好之会"理事长池田澄江。今日谨代表本会，向百忙之中莅临新年会的各位嘉宾致以诚挚谢意。本会自创立以来已走过十五载岁月。原定今日应举办第十五次新年会，但因疫情之故，时隔六年方能再度邀请诸位共聚一堂。在此得见诸多故交，不胜欣喜。

即便在疫情自肃期间，本会仍始终秉持两大宗旨：一为保障归国者安享晚年，二为促进日中友好。我们以审慎态度策划并参与了许多活动，这一切都仰仗在座各位来宾及支持者的鼎力相助。在此谨代表本会致以最深切的谢意。

今年适逢终战八十周年这一重要历史节点。

为此我们正筹备"感恩访问"纪念活动，此次访问或许将成为残留孤儿的最后一次集体返乡。恳请中国驻日使馆及日中协会能继续给予后援支持。

本会今后仍将一如既往，为全体归国者的晚年幸福

与日中友好事业

竭诚绵薄之力。殷切期盼各位持续给予支持与关怀。再次感谢各位，也希望各位在这里度过愉快的时光！



今年9月、本会は「訪中団」を結成して、中国ハルビンを訪問する予定です。そこで現地の関係組織と交流したり、舞踏劇「中国媽媽」と朗読劇「孤児の涙」を公演します。そのために、劇の出演者はいま一所懸命稽古しています。2つの劇はいずれも残留孤児がテーマで、戦争の残虐さと、苦勞して孤児らを育て上げた中国人養父母の愛情を描いているものです。

以前の公演で、たくさんの方々に感動を与え、涙を誘いました。

在“中国归国者日中友好之会”新年会上的致辞

中華人民共和國駐日本國大使館 政治部參事官 岑松

各位來賓、各位朋友：

今天，很高興應邀參加“中國歸國者日中友好之會”舉辦的新年會。我謹代表中國大使館，向出席今天新年會的各位朋友致以新春的問候和衷心的祝福。

“中國歸國者”是一個特殊的群體，你們作為戰爭遺孤及其後代的特殊經歷，既記錄了日本軍國主義的滔天罪行，又閃爍着中華民族淳樸善良、超越國界的人間大愛光芒，更昭示了中日兩國作為鄰居應該秉持的正確相處之道。當前，世界正處於百年未有之大變局，兩國關係也處於不進則退的重要時刻。去年11月，習近平主席和石破茂首相在秘魯首都利馬舉行會談，雙方確認共同推進兩國戰略互惠關係，構建建設性、穩定的中日關係，為兩國關係的發展提供了重要戰略引領。今年是中國人民抗日戰爭暨世界反法西斯戰爭勝利80周年。我們希望日本能夠深刻汲取歷史教訓，傾聽包括“中國歸國者”在內的愛好和平的民意呼聲，避免重蹈歷史覆轍，以實際行動促進地區和平穩定，確保中日關係沿着和平、友好、合作的正確方向行穩致遠。

“中國歸國者日中友好之會”成立以來，始終關注回到日本的戰爭遺孤及其後代的基本人權和生存權益，在野田毅先生和公明黨等具有良知的日本政界、法律界以及社會各界人士指導支持下，積極開展歸國者社會福祉支援事業、社會教育促進事業，成為歸國者可以依靠的心靈家園和守望相助的避風港灣。特別是，你們不忘中國人民的恩情，積極開展中日友好交流合作，在本身生活並不富裕的情況下，向中國地震災區慷慨捐款，令人十分感動。衷心希望新的一年，在池田理事長領導和社會各界支持下，“中國歸國者日中友好之會”不斷發展壯大。我們願同貴會以及日本各界正義人士一道，傳遞歷史真相，守護公理正義，深化民間交流，為開創中日持久和平和世代友好的美好前景，推動構建契合新時代要求的中日關係而不解努力。



來賓の皆様、友人の皆様：

本日、「中國歸國者日中友好の會」主催の新年會にお招きいただき、大変嬉しく思います。ここで謹んで中國大使館を代表して、新年會に出席された皆様からのご挨拶と新春のお慶びを申し上げます。

「中國歸國者」というのは特別な存在であります。戦争で捨てられた孤児とその子孫である皆さんの特別な経験は日本軍国主義の由々しい罪を記録したものでなく、中国人の純朴さ善良さ、国境を超えた人間愛の光を輝かせ、中日兩國が隣人としてどうやって付き合うべきかについても正しい道筋を示したものであります。当面、世界は百年來の大きな転換期にあり、兩國關係も進まなければ後退するという重要な時期に來ています。去年11月、習近平國家主席と石破茂總理はペルのリマで會談を行い、戰略的互惠關係を共同で推進し、建設的で安定した中日關係を構築することを確認し、兩國關係の發展に重要な戰略的ガイダンスを示してくれました。今年は中國人民抗日戰爭及び世界反ファシズム戰爭勝利80周年に当たります。私たちは日本が歴史の教訓を深く汲み取り、「中國歸國者」を含む平和を愛する國民の聲に耳を傾けて、歴史の轍を踏まないよう、また實際の行動をもって地域の平和と安定を促進し、中日關係を平和、友好、協力という正しい方向にもっていくように切に望んでいます。

「中國歸國者日中友好の會」は日本に戻ってきた戦争孤児とその子孫の基本的な人權や生存權に終始注目しており、野田毅先生や公明黨など良識ある日本の政界、法曹界をはじめ社會各界の人々に支えられ、歸國者社會福祉支援事業、社會教育促進事業などに積極的に取り組んできており、歸國者が互いに助け合う心の家と、いざの時頼りになれる港として親しまれています。特に、皆さんが中國人民の恩を忘れず、中日友好活動を積極的に展開しており、自分の生活が豊かではないにもかかわらず、中國の地震被災地に気前よく寄付したりしてくれたことは、本当に私達を感動させています。新しい年において、池田理事長のご指導や社會各界のご支援のもと、「中國歸國者日中友好の會」が絶えず發展していくことをお願い申し上げますとともに、私たちも貴会や日本各界の正義感を持つ方々と共に歴史の眞實を伝え、公理正義を守り、民間交流を深化させ、中日間の恒久平和と世代友好の素晴らしい未來を切り開き、新時代の要求に相応しい中日關係を構築していきたいものです。

中国残留孤児国家賠償訴訟原告目録



「中国残留孤児国家賠償訴訟弁護団」の団長として、中心的な役割を果たした鈴木経夫先生は5月2日に91歳の生涯を閉じました。その突然の訃報に接しまして、驚きと悲しみに打ちひしがれています。

私たち中国残留孤児は、戦争の混乱の中で肉親と引き裂かれ、異国の地で苦難の歳月を過ごしました。祖国に戻った後も、言葉や文化の壁、社会的な偏見に苦しみ、長年にわたり正当な権利と尊厳を求めて戦ってきました。その道のりは、あまりにも過酷なものでした。

鈴木先生を始めとした弁護団の皆様は私たちの叫びに耳を傾け、法律家として、そして一人の人間として、私たちの権利回復のために全力を尽くしてくださいました。残留孤児の私たちに、いつも優しい眼差しで穏やかに接してくださいました。先生的情熱と正義感、揺るぎない信念がなければ、私たちの訴えは社会に届かず、歴史の闇に埋もれていたかもしれません。先生は、単なる弁護士ではなく、私たちにとって家族のような存在であり、心の支えでした。

「国家賠償」という重い扉を開くため、先生はどれほどの苦勞とご尽力を重ねられたことでしょうか。その道程は決して平坦ではありませんでしたが、先生は常に私たちに寄り添い、「諦めないこと」の大切さを教えてくださいました。先生が遺してくださった勇氣と希望、そして正義を求める精神は、私たちの胸に永遠に生き続けます。

残された私たちは、先生の志を受け継ぎ、歴史の真実と平和の尊さを次の世代に伝えていくことを誓います。どうか、安らかにお眠りください。心からご冥福をお祈り申し上げます。（池田 澄江）

弔 辞

安原 幸彦（2025年5月6日）

鈴木経夫先生、中国残留孤児弁護団では大変お世話になりました。暫くお目にかかっていなかったのですが、一度お訪ねしようと考えていたところ、思いもかけずこのような形でお目にかかることになりました。残念でなりません。

鈴木先生は1999年4月に裁判官を退官されて間もなく弁護団に参加されました。年代が近いこともあり、残留孤児の皆さんに対する共感を強くもっておられたからだと思います。2014年に先生がお書きになった日中友好新聞の記事があります。「中国残留孤児から学ぶもの」という表題で、そこには以下のような記述があります。

「日本の侵略戦争の結果に翻弄されて、中国の原野をさまよい、かろうじて生き残ったが、両親とは離別し、その後も続いた過酷な運命について、自らの経験を話してもらった。もらい泣きもし、原告たちの顔を見つめるのもやっとということもしばしばあった。」

中国残留孤児国家賠償訴訟は2002年12月の東京地裁への訴訟提起を皮切りに全国15地裁に2211人が原告となって訴訟が展開されました。鈴木先生は全国で訴訟が展開されたことにも貢献されました。例えば、大阪の久保井弁護士は「大阪の訴訟は、最初に鈴木先生が大阪に来てくださって、丁寧にレクチャーをしてくださったことから全てが始まりました。」と述べています。岡山の則武弁護士も「残留孤児訴訟の闘いの中で、どんな困難なときでも、いつも優しい笑顔で残留孤児の皆さんと接しておられたことを思い出します。」と述べています。

残留孤児訴訟は神戸訴訟が勝訴した以外大阪・東京等7地裁で請求を退けられて大変困難な局面に立たされました。私などすっかり落ち込んでいましたが、鈴木先生は「判決も大事だが、もっと大事なのは原告の数だ。」と述べられ、私たちを励ましてくださいました。後に厚労省の役人が「政策対象者の大半が原告になって国の政策を誤りと主張されたときに、判決はどうあれ、自分たちの負けが決まると受け止めている」と述べたのを聞いて時に、鈴木先生のおっしゃることの意味を改めて噛みしめました。

2002年12月20日の提訴の時は浜松町で集会を開き、そこから霞ヶ関までデモ行進をして訴状を提出しました。鈴木先生はそのデモ行進の先頭に立って横断幕を持って行進されました。この時びっくりしたのは、残留孤児の皆さんが全員日の丸のはちまきをしていたことです。自分たちは日本人だとアピールしなかったのです。私たちにもはちまきをするように言われましたが、それだけは勘弁していただきました。そこには、日本で日本人として迎えられなかった残留孤児の皆さんの無念の思いがあったのです。

この葬儀にも感謝と哀悼の意を捧げるために残留孤児の皆さんが来ています。改めて鈴木先生、本当にありがとうございました。

“感恩团”已组成 于今秋访中

文：河村忠志 訳：祖父江安紀子

今年是战后80周年。80年前我们残留孤儿都经历了那场战争的苦难，年幼的我们在死亡线上挣扎之际，是中国养父母把我们从死亡线上救了回来，在艰难的岁月里又把我们抚养成人。因此，没有中国养父母无私的爱，就没有我们残留孤儿的今天。在战后80周年到来之际，感恩的心更是油然而生。为此，由NPO法人中国归国者・日中友好之会主办，决定于今年9月10日至14日再次组团访问哈尔滨。

在哈尔滨访问期间活动的主要内容是有三，第一，有两场演出，演出的节目主要是由崔树人先生编导的节目，“孤儿的泪”和“中国妈妈”。第二，座谈交流。第三，前往方正县祭扫中国养父母之墓。通过以上活动从而达到此访问的予期宗旨：一是感恩。感恩养父母，感恩中国；二是宣传和反战，反对战争；三是为日中友好再做贡献。

截止4月末，95人的访中“感恩团”已组成，各项准备工作也正在紧锣密鼓的进行中。特别是承担演出任务的剧组人员压力很大，因为两场演出是本次访问的重头戏。作为此次访问的接待方，黑龙江省社会科学院为我们策画、租借演出会场等方面都作大量的工作，对于他们热情周到的工作态度，给我们留下深刻印象。这次访问河合先生、律师团的先生们给予我们大力支持并且随团访中，使我们对此次访问充满信心。此外，舞蹈教室的北野先生及其同事们积极参与“孤儿的泪”和“中国妈妈”的演出也必将提高演出的效果。

总之，此次访问有方方面面对我们的大力支持，访问一定能达到预期的目标，一定能取得圆满成功。

「感恩团」が今秋中国を訪問します

今年は戦後80年の年です。80年前、幼かった私たち残留孤児は、あの戦争の苦難の中でまさに死ぬか生きるかの瀬戸際でした。中国の養父母は、文字通り私たちを死の淵から救い出してくれ、苦しい生活の中で私たちを立派に育て上げてくれました。中国の養父母の無私の愛がなければ、とても私たちの今日はありませんでした。戦後80年を迎えるにあたり、感謝の心はいや増すばかりです。この気持ちを示すため、NPO法人中国帰国者・日中友好の会主催で、本年9月10日から14日まで、二度目となるハルビン訪問を行うことになりました。

ハルビン訪問期間の活動内容は主に次の3つです。第一は、二つの劇を上演します。演目は本崔樹人先生が監督指導の劇、『孤児の涙』と『中国媽媽』です。第二は、座談会を行い、交流を深めます。第三は、方正県にある中国養父母の墓への墓参りです。これらの活動を通して、今回の訪問の目的が果たされることとなります。一つめは感謝を示すこと。養父母に感謝し、中国に感謝します。二つめは、平和を訴え、戦争反対すること。三つめは日中友好に更なる貢献をすることです。

5月9日の時点で、訪中“感恩团”に96名の申し込みがありました。それぞれの準備も着々と進んでいます。特に、劇への出演を引き受けてくれた制作スタッフのプレッシャーは大変なものであり、この二つの劇が今回の訪問のハイライトと言えます。今回の訪問の受け入れ側である黑龙江省社会科学院は、私たちのために、会場の手配をはじめ様々な準備をしてくださっています。温かく思いやりのある態度は、深く心に残りました。また、今回の訪問にあたって、河合先生と弁護団の先生方が強力なサポートをしてくださり、また同行もしていただけるので、私たちは非常に心強く、自信をもって訪中するこさらに、北野先生とその同とができます。僚の方々

『孤児の涙』と『中国媽媽』に進んで参加していただけるので、きっと高い演出効果が得られることと考えています。

今回の訪問は、各方面の方々が私たちに強力なサポートをしてくださっており、訪中はきっと目標を達成し、必ずや成功を収めることができると確信しています。

年夜饭（年越し料理）

文・写真：白山 明德

四月温和雨乍晴，我的上海学友用微信告诉：近日正值清明，在院子里带我为仙逝的父母烧了纸钱，以表祭祀缅怀。读文感动尤生！自家私事还让挚友记挂，正是人世沧桑，难得一份情感。我已暮年，在年轻人面前自嘲为“老朽”生活在东京几十年，习惯依旧。“残留老孤儿”也残留了种种中国式世俗观念，虽然老亦，「尚能饭否」。时逢春节，不能如同大陆彼岸热闹欢庆，自然心里会有些冷落和不甘，总要简单意思一下。

旧历30准备了一顿年夜饭，用心做几道菜摆上桌。我的童年是在东北沈阳渡过，七岁随养父母到武汉，所以饮食口味南北都有。有人说年夜饭是情感凝聚，是一种文化的传承，不管简素怎样，还得上心准备。红烧鲤鱼寓意好；酸菜饺子，开胃美味；还有南方卤肉醇香入口；炸肉丸、炒木耳、拌凉菜。妻子忙碌做好一桌菜，我摆上碗筷敬上酒，按以往习惯，开饭前郑重叫饭，我打开门，肃然站立仰望星空高声：请爸爸妈妈回来过年吃饭！此时此刻，我心里随之颤动，温暖又神秘。仿佛逝去的养父母真的回到我们家里，妻子恭立一旁轻言软语地说，饭菜还是家乡的口味咸淡，都有请爸妈好好尝尝。

我不由回忆起两位老人的音容笑貌，在那战乱之年义无反顾的收养我，把一个所谓开拓团的日本幼童当作自己至亲骨肉，并掏尽心血养育我成长成人。几十年来，和许多残留下来的共命运同伴一样，我永远感恩中国养父母，有生之年缅怀不忘。自从有了网络风习，日常生活里，几乎无时无刻都离不开手机，上网几乎不再书写文字，甚至荒废正事，浪费时光，淡泊亲情。我不愿自己陷入其间，为了纪念和回忆，执笔写了此文，以作自省和鞭策。短暂“叫饭”后我们和孩子们欢心举杯庆贺一年吉祥，品尝自家做的可口美好的年夜饭。在这传统而喜庆的中国除夕节，亦在这冬日四处平静的都营住宅楼里。



四月の穏やかな雨上がり、上海の学友が微信で知らせてくれた。ちょうど清明節の頃で、庭で養父母のために紙銭を燃やし、偲んでくれたという。私事なのに、心をかけてくれて、世の中の無情を常に感じる中で、このような友情は貴重なものだ。私はすでに老年となり、若者の前では「老いぼれ」と自嘲している。東京で数十年生活しても、習慣はまだ中国のまま。老いても尚まだ「飯を食べるか」、旧正月を大陸のように賑やかに祝えず、心寂しさと無念さを感じる。それでも簡素に気持ちを込めて、旧暦30日に年越しの食事を用意した。

幼少期は瀋陽で過ごし、7歳で養父母と武漢に移ったため、食の好みは南北両方にある。正月の習わしは情感の結晶であり、文化の継承だ。味はどうであれ、心の準備が肝要だ。红烧

鲤鱼（鯉の醤油煮）や酸菜饺子（白菜漬の餃子）など、食欲をそそる料理を妻が準備し、私は箸と酒を並べ、慣例に従って食事の前に「叫飯」（先祖を招く儀式）を行った。ドアを開け、恭しく立ち、「お父さん、お母さん、新年の食事にどうぞ」と

声をかけると、心が震えた。温かくも神秘的な瞬間だった。まるで養父母が本当に戻ってきたようで、妻は傍らで「味付けは故郷のままです、どうぞ召し上がって」と優しく語りかけた。

戦乱の時代に、開拓団の日本人孤児である私をためらわず養子にし、心血を注いで育ててくれた二人の面影がよみがえる。多くの残留孤児と同様、中国の養父母への感謝は生涯忘れない。

インターネット時代になり、日常はスマホ依存で文字を書かなくなり、時を浪費し、肉親の情も薄れがちだ。そんな状況に堕ちたくないため、記念と回顧としてこの文を書いた、自省と自戒も込めて。短い「叫飯」の後、子供たちと杯を交わし、手作りの美味しい年夜饭を味わった。伝統的な中国の大晦日、冬の静かな東京の都営住宅で。

認定 NPO 法人中国帰国者・日中友好の会活動(R6年9月～R7年7月)

R6年9月8日	代々木公園で行われた「チャイナフェスティバル2024」に本会の「楽器」「合唱」「舞踊」教室の皆さんが参加
R6年9月26日	中華人民共和国駐日本国大使館主催の「中華人民共和国成立75周年」記念に池田理事長他1名出席
R6年10月8日	山形にて東北の帰国者と交流会を開催
R6年11月26日	フリージャーナリスト劉冠宇さんが池田理事長を取材
R6年12月18日	ドキュメンタリー映画監督竹内亮の製作会社のスタッフが残留孤児5人を取材
R6年12月22日	本会活動室にて「忘年会」が開催
R7年1月15～17日	竹内亮の製作会社のスタッフが残留孤児15人を取材
R7年1月20～24日	フリージャーナリスト劉冠宇さんが残留孤児10人を取材
R7年2月23日	北とぴあの飛鳥ホールにて、2025年新年会が開催
R7年3月15日	「国際交流フェスティバル・華の春2025」に、本会楽器教室の皆さんが出演
R7年3月26日	黒竜江省社会科学院ご一行が来訪

※お知らせ※

★第17回定例総会開催
 時間：2025年6月21日
 場所：NPOBFI 活動室

★中国訪問
 時間：2025年9月10日～14日
 (復路変更可)

会報のバック・ナンバー
 一お読みになれます♪



《家園》編集委員 (第33号)

白山明德	河村忠志
二田口国博	張狄
祖父江安紀子	孫妮
写真撮影 入澤美和子 柳勇夫 吉岡孝行	
レイアウト 松本莉恵 張狄	

編集後記

“不知麻雀去哪儿了”。光阴已被绿染，花姿渐散、难寻，等不了麻雀飞影衔来悦耳鸣唱，猜不透哪阵风反复推敲人间的潦草。穿上又脱的衣服挺过年岁的轮回或寒或炎，品不完新的故事味道、咖啡的苦涩。酒，再没有斟上；友，再没有聚全。

よろず相談窓口

TEL : 03-3835-9357 平日 10:00～16:00 日本語・中国語対応
 FAX : 03-3835-9358 随時可